

---

---

## ホットニュース(平成18年度／第98号)

---

---

### ●今月の業界ホットニュース／表参道ヒルズ雑感

---

---

表参道はよく通る駅なので、表参道ヒルズに立ち寄ってみた。ヒルズができたせいか、駅から原宿に至る通りは人が溢れてうんざりするほどである。それも手伝って、あまり期待もせずヒルズの中に入ったが、中は意外とよくできていると思った。

建物の中に表参道の坂道を取り込んでいると聞いていたので、中央にドンとそういう通路が取ってあるだけの空間イメージだったが、参道に面したフロント側の店と通路は参道に沿ったスロープ、裏側は同じ傾斜の逆スロープで、B2から3Fまで螺旋状に回遊できる。即ち3Fまで上がれば、スロープをダラダラ下れば全店をウインドー・ショッピングできることになる。混雑したショッピング・センターは一寸うろろすると嫌になるが、意外と楽な動線になっているのである。

もうひとつ、日本酒の店があったのがおじさんには嬉しい。近年こういう小じられた開発にワインの店が増えてきたとは思っていた。店の設えはワインの店のような感覚であり、若者を狙っているのだろうが、日本酒の店があるだけで安心する。そういえば、近年この種の開発があると、中高年層が結構うろろしているのを見かけるようになった。少子・高齢化に向けて、中高年層のニーズも意識した開発なのだろうか。

(代表取締役 堀田 紘之)

---

---

### ●バイク交通の役割

---

---

ここ一年半ほどベトナムの仕事に携る機会があり、そのうちの約2／3をハノイ市で過ごしてきた。ご存じの方も多いと思うがベトナムは本当にバイクが多い。特に都市内は一日中バイクで溢れており、いわばバイク天国である。ここではそんなバイク交通について少し紹介します。

#### ○生活に密着した交通手段

幹線道路から裏路地まで至る所で走行でき、究極のDoor to Doorの乗り物として機能しているようだ。また、バイクでは大きな荷物は運べないという日本人の常識を覆すように、ソファーや冷蔵庫なども巧みに載せて運んでいる。更に自動車と比較して安価に購入できること、駐車場に困らないこともあり、近年では一家に一台から一人一台の保有へ向かっており、バイクと日常生活は切っても切れない関係のようだ。

#### ○バイクタクシー(セオム)を利用してみると

私も実際にバイクタクシーを利用したことがあるが、行きたいところへすぐに行けるその便利さに感心した。乗ってみると、見ているよりも危険はそれほど感じない。都市内ではスピードも30(km/h)以上出るとはあまりなく、最近では幹線道路でバイクのヘルメット着用が義務付けられるようになったが、ヘルメットをかぶらないで乗るバイクはすごく爽快である。この爽快感もまたバイク交通の隠れた魅力なのだろう。

#### ○バイク交通の課題

バイクの運転マナーについては、お世辞にも良いとは言えない。バイク同士や歩行者との接触事故は日常茶飯事である。信号もきちんと守っているドライバーは8割ぐらいだろうか。道路を横断する時は交差点よりも単路部の方が安全に感じる。交通安全上の課題はまだ多い。また、排気ガスに直接さらされるのも問題だろう。マスクを着けてバイクを運転している人も多く見られ、大気環境の問題もある。この辺の問題をクリアでき

れば、独自のバイク交通の文化を活かした都市活動が可能になるようにも思える。

(第一計画部 関 陽水)

●防災まちづくり／密集市街地での防災まちづくり:墨田区向島地区

墨田区は東京都区部の東部に位置する人口22万人の区である。江戸時代以来、隅田川や相撲などを中心に下町文化が繁栄した地域である。この墨田区内の向島地区では戦前、工場の進出や長屋住宅の張り付きなどで密集市街地が形成した。その後の東京大空襲でまちのほとんどを焼失したが、迷路のような路地はそのままだり、戦後も再び密集市街地が形成している。この向島地区では全国に先駆けて防災都市づくりや密集市街地の再整備を進め、数多くの実績と成果を挙げている。

○京島地区のまちづくり

向島地区内の京島地区は区内でも最も防災対策が急務となっている地区の一つである。市街地再開発事業による密集市街地の解消など様々な取組みが検討されたが、住民の反対運動などが起こりなかなか実現できなかった。1990年代に入り区は、「京島まちづくりセンター」を設立して現地にその事務所を置き、地域と密着したまちづくりを進めることとした。また各種事業制度を用意して住民側の選択肢を広げることや、住民がまちづくりに参加できる体制づくりを行った。

具体的には住民等をメンバーとするまちづくり協議会を組織し、「まちづくり計画」を定め、それに沿った事業展開を実施している。その結果、平成4年から平成6年の3年間に6棟40戸のコミュニティ住宅(幅員6～8mのループ上の道路を整備し、その沿道に従前居住者の共同住宅棟を建設することにより防災性を高めるもの)が完成した。また住宅の個別更新や共同更新などを支援したことにより道路の拡幅整備が進んだ。

○他の地区への展開

墨田区では、向島地区内の他地区においても密集市街地での防災まちづくりを進めている。京島地区での成功や反省点を踏まえ、地区の特性を反映したまちづくりの進め方を模索し実施している。住民側からも様々な団体が生まれ、まちづくりにおける住民活動が盛んになっている。

現在、大都市部を中心に、多くの地区で密集市街地の防災まちづくりが検討されているがなかなか進まないところも多い。向島地区の事例から、防災まちづくりには近道はなく、住民などの関係者が集まり協議し着実に地域にあった方法で進めていくことが必要であることが把握できる。

(第二計画部 内山 征)

今月からアルメックホットニュースでは、今後のまちづくりにおいて重要になると考えられる、全国のまちづくり事例を10のテーマごとにご紹介してまいります。

【まちづくりのテーマ】

- 1.防災まちづくり
- 2.防犯まちづくり
- 3.美しい国づくり・まちづくり
- 4.環境負荷の小さいまちづくり
- 5.環境の保全・創出のまちづくり
- 6.まちの産業創出拠点づくり
- 7.まちの交通ネットワークの形成
- 8.観光・交流のまちづくり
- 9.居住基盤づくり
- 10.交通安全まちづくり